

※にいじまむら 議会だより

第 77 号

平成 28 年 6 月



平成 28 年第 2 回定例会（6 月）

会 期 日 程

第 2 回定例会は平成 28 年 6 月 14 日に開催され、新年度予算、補正予算、新条例、条例改正などを審査しました。

も く じ

一般質問から	2
視察報告(上)	6
議長の自ラウンド	9
公共施設再見	10
議長の四季報	12
編集後記	12

Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をたずることができます。

表紙は語る

梅雨の晴れ間に子どもたちの笑い声と大人の掛け声が響く。新島小学校のある日の放課後。今年6月から放課後子ども教室事業の試験的实施として、毎週金曜日に生涯学習コーナーネーター2名・スタッフ・高校生が参加している。ワンポイントレッスンによって遠投の記録が伸びたり、ヨガでストレッチした

り、遊びにひねりを持たせつつルールを守ることで他学年交流を促したりしている。動き疲れた児童は朝礼台や軒下で思い思いに折り紙・編み物・ボードゲームなどに興じていた。児童の参加者も当初は20名程度であったが、今では40名を超える盛況ぶりである。子どもを受け止めつつ、その可能性を広げる活動に期待したい。

山本均 議員



真に村のあるべき姿は？

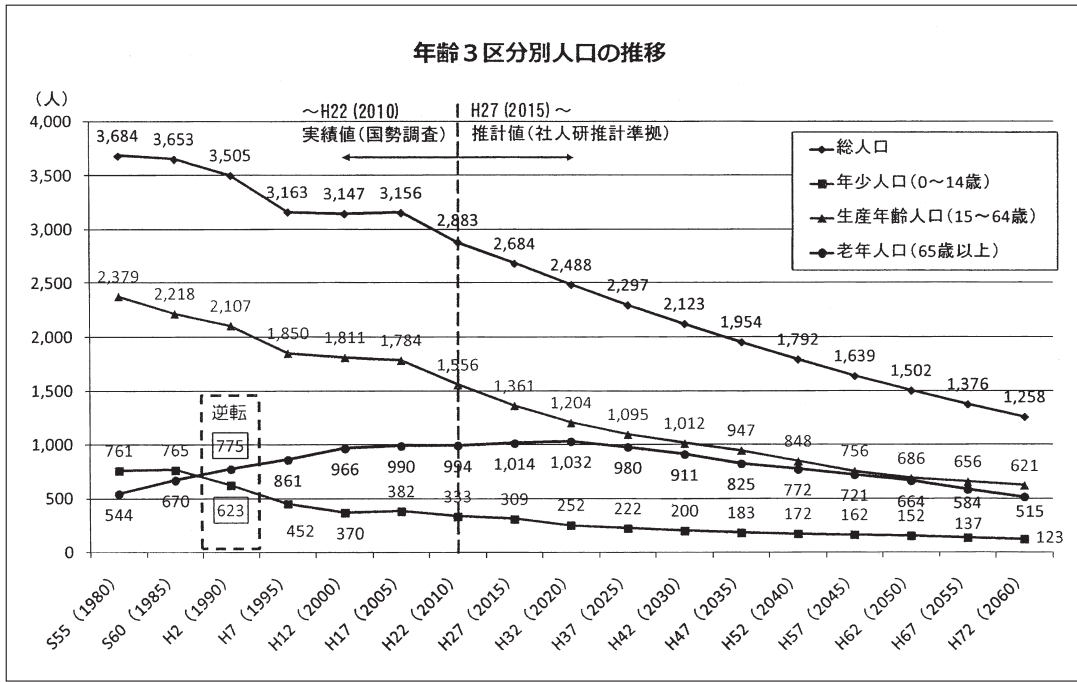
新島村の良さ、魅力を追求し自

覚した上で、そこを新たな出発点として再生していくべきではないか？

答 新島村の持つ固有の資源（自然、歴史、文化、風俗など）

を大切に保護し、活用していくことが肝要である。今後、観光を中心として交流人口の増加や商工業の活性化を目指して稼げる力をつけることが大事だと思っている。





(出典：まち・ひと・しごと創生 新島村総合戦略)

問 総合戦略の具体的事業は？
 今後、総合戦略の事業を行なうて

答 いく上での作業工程はどうなっているのか？
 現在、実施している事業や今後計画

していく事業は村の五年計画に落とし込んでいく。その中で総合戦略に位置付けられる事業は、既存事業も含め横串で捉えなければならぬ。

問 総合戦略に取込んで補助金の獲得を目指す具体的事業としてどのようなものを考えているか？

答 補助金うんぬんは国の具体的な補助事業メニューは一部を除き、はっきり示されていない部分があり、今後の国の動向、情報を注視し、適切に対応していく。

夏の観光対策はいかに？

問 この時期、恒例となつた夏の観光対策はどのように実施するのか？

答 夏の観光は重要であり、その戦略として観光客を誘致するためのPR、来島後は楽しみ・くつろげ・癒され・安らげる受入れ体制を整えていく。

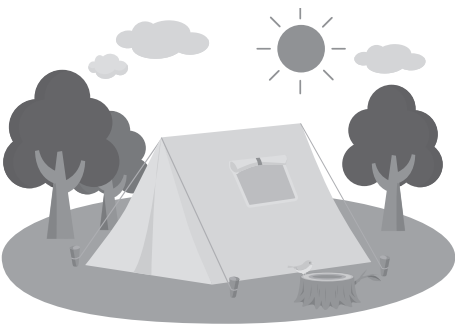
海その他、山々の美しい風景を堪能しながらのトッキングやサイクリング、ゆったりとくつろげる温泉、島の歴史の探索、大自然の中のキャンプ、美味しい特産品、人とのふれあいなどのメニューをリンクさせ、満足してもらえようとする。

いかにして高齢化社会と向き合うか？

問 新島村も高齢化社会は言葉だけではなく、現実のものになっている。村はキメ細かく現実を見据えた方策を考えるべきではないか？

答 村では社会福祉協議会に委託し、高齢者や障害者に送迎サービス・配食サービス・訪問相談等を実施している。独居高齢者、高齢者世帯等の見守り活動も民生児童委員を中心に関係機関と協力し、きめ細かい対応を心掛けている。

今後も現在の福祉サービスを継続し、地域の支えあいの体制を推進するため、ボランティアの活用も検討したい。



前田 卓秀 議員



オリンピックサーフィ
ン招致について

問 具体案はあるの
か？

答 先月26日（5月26
日）IOCのコー

ツ副会長が「サーフィ
ンは千葉の可能性が最も高
い」と発言した。村とし
ても、この発言には困惑
しており、早速、東京都
町村会を通じ、新島を会
場として選定していただ
けるよう、組織委員会及
び東京都に対し、再度、
強く要望し、要望書の提
出を調整中です。

今定例会に補正予算と
して計上したサーフィ
ンのPRDVDの作成と、
誘致のための広告を出し
たいと考えている。
ひとまずは村とNSA
新島支部との連携で活動
していくことを考えてい
るが、状況に応じて近々
に招致委員会を立ち上
げ、対応していく。



木村 諭史 議員



平成27年度住民要望へ
の対応について

問 住民要望の回答書
に対しての執行部
の総括と進捗を問う。

答 要望222項目に
対して、27年度対

応済み41件（18・5％）、
28年度6月現在対応済
み16件（7・2％）、28
年度中に対応予定21件
（9・4％）、管轄機関
への要望済み16件（7・
2％）、対応協議中75件
（33・8％）などとなっ
ている。広報等での進捗
の報告も検討していく。

新島村全体での戦略的
人材育成・確保・需要
見通しの共有の提案

問 新島村全体で必要
とされる事業に対

応できる各種有資格者を
把握すること（個人情報
なので希望者から募集す
る）、産業団体含めて

『このような人材を必要
としている、数年後にも
必要となりそう』など、
一括してホームページ等
で情報共有してはどう
か。ーターン、Uターン

や島民の積極的な資格取
得も推進できるのでは？

答 村役場のそれぞれ
の職場で人材確保

を個別に行っているもの
の、村全体で必要とされ
る事業に対応できる有資
格者の把握や一括して
ホームページ等で情報を
発信・共有する体制は整
備していない。今後個人
情報に配慮しつつ、有資

格者の把握および人材確保の方法などについて検討していきたい。

個別事業の成果を新島村全体の戦略につなげていく提案

問 自発的で持続可能な観光振興・地域振興が芽生えているが、新島村全体の戦略に組み込んでいくことが重要ではないか。行政や議会も視察に赴く、各種広報媒体で情報公開、地方創生の総合戦略の事業成果としての体系化、いくつかの事業の合同報告会開催など、いかがか？

答 第九回目の新島ウエディングを拝見したが、新島村のイメージを良くし、PRにおいても最適な方法であると思った。各種の広報媒体を活用し、様々な情報を発信し、村内で情報を共



有することは住民にとっても意義があり、事業の成果を高め次に繋げていくことは重要。今後の課題として検討していく。

新島トライアスロンの事業成果と改善提案について

問 実施の成果、コスト、意義、将来展望について伺いたい。運

望について伺いたい。運

営におけるボランティアに対するケアを問う。島民枠を拡充・募集方法の柔軟化・島民選手紹介の配布などで、応援甲斐を高めるのはいかがか？

答 トライアスロン大会を開催する主目的は観光客の増である。

ボランティアは実行委員会から各団体にお願しているが、決して強制ではない。多くの先輩方や島民の方が支えてくださったおかげで、今や絶大な人気を誇るイベントに成長したと感じている。気持ちよく手伝っていただくためには、私たちが丁寧の説明をお願いしていく。

特別支援教育のアンケートの進捗

問 新島小学校・中学校での特別支援教育の固定級一通級を利用

した世代の生徒が高校受験可能な時期が近づいている。前回の定例会では保護者を対象にした進学の意向調査を提案し、教育長もぜひアンケートを実施すると答弁したが、現状を共有したい。

答 アンケートと協力依頼文書を作成しつつ、実際に利用されている保護者と個別に面談しながら趣旨や目的を説明し、意見を伺ったうえで、特別支援学級に入級されている児童・生徒の保護者全員にアンケート用紙を直接届け、当月末までの回答をお願いした。内容は現状把握・これまでの特別支援教育に対する評価・学校および私共への要望・現時点での子供の進路についての意向・将来への不安・自由意見となっている。

兵庫県^{ささやまし たんばし}篠山市と丹波市の視察（上）

人を呼び込むまちづくり

議員 木 村 諭 史

1. 視察概要

このたびの議員視察は5月18日から20日までの二泊三日、兵庫県にて隣り合う篠山市と丹波市の二か所の訪問となった。新神戸駅からバスに乗り込み、福知山線に沿って宝塚を経て30分もすれば長閑で広大な農村風景が広がっているが、その中に篠山市・丹波市が位置することになる。

2. 篠山市概要と先進性

まず第一の目的地、兵庫県の篠山市は、1999年4月、旧篠山町・西紀町・丹南町・今田町の4町が合併して誕生した。「合併特例法」の適用第1号であり、“平成の大合併”のモデルケー



スとして有名になるなかで年間300件を超える視察や「篠山詣で」という言葉が生まれたほどである。その反面、多様な財政支援策が盛り込まれた合併特例債の過剰な活用による財政悪化でも有名になり、実際に平成26年度決算での将来負担比率は219.0%と全国でも6番目に悪いとされているようである。

ところが実際に訪問した篠山市からは、そのような暗い雰囲気は感じず、むしろ古き良き文化を守りながらも、温故知新で前向きに取り込んでいく姿勢を感じた。その理由として、平成27年度には日本遺産への認定、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟（国内では7都市め）などの活動も挙げられる。

このように篠山市は、都市化に乗り遅れたことで残された農村風景を、むしろ“積極的な武器”として活用し、農都創造などをキャッチコピーに進んできていることが実感できた。加えて、篠山市は合併前より旧 4 町村は篠山城を中心にした多紀郡として文化圏を共通にしている、景観にも非常に統一感のあるエリアであることを感じられた。

3. 篠山市議会訪問

篠山市議会がある篠山市役所に訪れたが、市役所は城址公園に接した見晴らしのいい場所であり、花見の季節には 3 階の市長室も市民に開放しているほどである。市役所庁舎には、



『こども未来課』や『創造都市課篠山に住もう帰ろう室』など住民にとってわかりやすくユーモアのある組織名が並んでいる。

市議会議長との打ち合わせで驚きがあった。なんと式根島の絵本の家、のぞみ文庫のオーナーと同級生だったということから、話が弾み、予定時間を過ぎても意見交換が続いた。

訪問当日に篠山市新人議員研修も行われていたが、篠山市議会は 2008 年の議員選挙の際に、前述の財政問題などを理由に議員定数 20 名中 13 名が一度に新人に入れ変わったため、先輩議員だけでなく行政職員を含めて、新人議員を指導する体制が整えられたようである。また、その際の新人議員の一人が現議長であり、すぐさま広報編集委員長に就任し、先進的な編集方針を打ち出していたようである。この劇的な新陳代謝を前向きに乗り切る篠山の精神をここにも感じられた。

4. 集落丸山視察レポート

築 150 年を超える茅葺の古民家集落である集落丸山を見学した。現在も 19 名の村人が暮らしているが、平成 20 年からの集落内外のメンバーが参加した 12 回にわたる学習会とワークショップを経て、『NPO 法人集落丸山』が設立され、『LLP 丸山プロジェクト』（L

LPは有限責任事業組合という意味)という形で活動し、平成21年より宿泊事業を開始している。

空き家所有者はLLPに無償貸与するが、LLPは改修・活用特典や配当を所有者に提供する。な



お、LLP内には地元のNPO法人集落丸山が予約受付や顧客管理・情報発信を行うが、それだけでなく、新しい外部の力として『一般社団法人ノオト』が専門性を生かして、工事の委託契約や補助の獲得、イベント企画やデザイン管理なども行っている。このように内部と外部の力を協同させて実施していることも特徴である。また、隣島の利島とも椿の記念植樹で交流したことがあり、やはり先進的な活動の裏側には、活発な人材交流があるのがわかる。

一泊朝食付きの宿泊料金は、一棟貸し料金4万円に加えて一人当たりサービス料5千円となるので、例えば2名なら25千円、5名なら13千円となっている。サービスは朝食と宿泊のみで、夕食は他のレストランに各自赴く。宿泊事業は3割の稼働率で採算が合うよう工夫されており、Uターンの若手女性の常勤職員1名を中心に昼前後の宿泊客入れ替え時には近隣から7、8名のスタッフが応援する。

民宿料金に慣れた我々新島村民には非常に高額に思えるが、品質を高めることで、それを求める人に価値のあるサービスを提供していることが理解できた。なお、古民家改修の程度であるが、トイレ・水回り・ベッドなどは新しい素材であるが、それ以外は古き良き素材を生かす改修がなされており、新島・式



根島でも十分再現可能であると思われる。

NPOのリーダーは、『資金や人材もなくともやればできることを証明したい』、『全国的な講師を呼ぶイベントによって、講師のフォロワーがくる、口コミで集客できる』、『全国に居る支援者のおかげで成立している』とも語っていた。しかし、この活動を“先進事例として通り一遍で取り上げてもらいたくない”ようである。それは本人の慎ましさでもあるし、先進事例という完成形のレッテルを恐れていることもあるかもしれないが、なにより表面だけでない、内面的な理解を持って、この事例を受けとめたいと感じた。

次号 丹波市編に続く



議長の目^{アイ}ランド



公共団体等でよく使う言葉の一つに「そういう事は前例がない」という言い方をすることがあります。その先はどうなるのでしょうか？

ほとんどがそれで終わり。計画に載ってない、予算がない、これこれこうだから出来ない。住民の皆様も一度や二度、この様な場面に出合った事はありませんか？これはすべて否定的な言葉です。この先には一筋の光もなく、わずかな希望も見えない。「前例」がなければ前例を作ればよい。計画がなければ計画すればよい、予算がなければ予算を確保する方法を考えればよい。出来ないのではなく、どうすれば出来るのか考えればよい。確かに新しい事を実行するには多くの時間と労力とお金がかかりますが、現在あるすべての前例は最初からあった訳ではない。大勢の人材と時間と予算を使って出来たものです。

次に検討とは物事を詳しく調べ考えること。よいかどうかを調べ考えることとあります。

1. すぐに実行に移すための検討
2. ある一定期間を要する検討
3. 中期・長期を要する検討

さあ、どれに当てはまるかよく考えて早速、諸々の事に取り掛かりましょう。

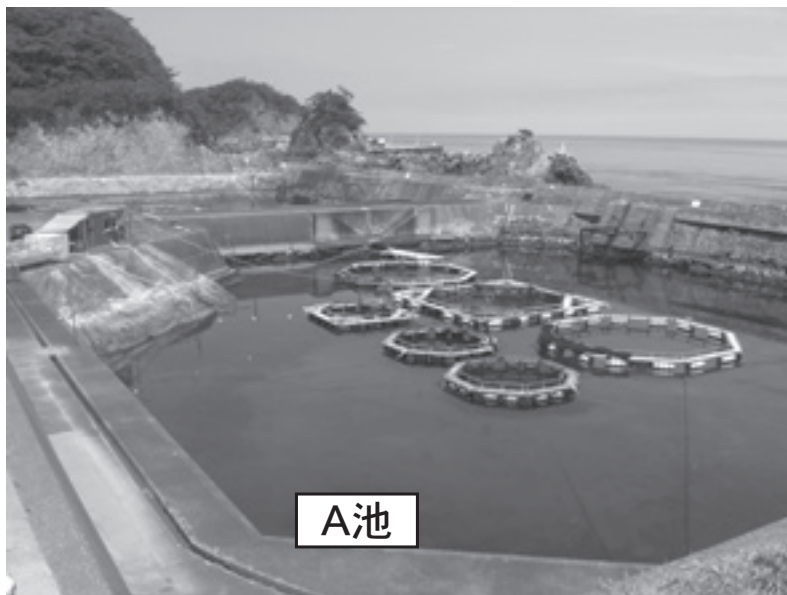


議長 戸田 邦市

公共施設再見

第 2 回 新島村養殖場施設（上）

「失敗学」という学問分野がある。これはある目的のために実施してきた事業が目的どおりの結果が得られなかったとき、なぜか？を研究する学問と言ったらよいか。東日本大震災のとき、福島第一原子力発電所の処置の件で注目された。



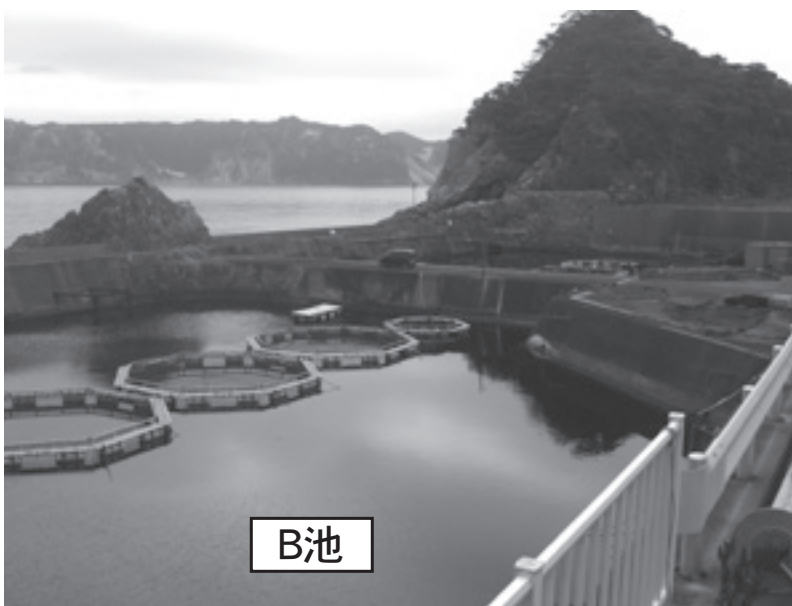
なぜ同じ失敗が繰り返されるか？人は自己の過ちを認めたくないものであり、組織となると防衛本能が働いてしまう。特に公共団体の場合、民間とは異なり、本体が消えてなくなることはない。このためむしろ失敗の原因は明らかにされず、あいまいなまま見過ごされてしまうことが多い。

しかし失敗は成功の元と言われるように失敗の原因を究明することは大切であり、新たな発展の原動力となる。

今日、日本は繁栄の絶頂期から下り坂を徐々に進んでいるが、その中には失敗と呼んでもいい事業が少なからずあるように思う。特に地方公共団体が実施してきた公共事業には様々な思惑がからんで、失敗と言ってもその原因は複雑で一筋縄にはいかない。今回、取り上げる式根島の亀の甲にある養殖場の建設・運営であるが、これまで色々と批判にさらされてきた。なぜ、村が収益事業をやるのか、赤字続きで税金の無駄使いではないか、地域社会にどう貢献しているのか、などなど。そこで改めて関係者や現場の声を聞き、住民のみなさんに現状を知っていただき今後のあり方を考える一助となるよう論を進めていきたい。

そもそもの発端は昭和50年代の中頃、シマアジの価格が高値で取引（キロ当たり8千円～1万円）されていて、当時の新島では捕獲した稚魚を島

外の養殖業者に出荷
（キロ当たり1千円～
2千円）していた。そ
れなら自前で育て成
魚として売り出せば新
たな地場産業となる
のではないか、獲る
漁業から育てる漁業
への潮流にも適って
いる、ということで俄
然、脚光を浴び、養殖
場建設に邁進するこ



B池

とになった。この事業には当時の式根島漁業協同組合（以下「当漁協」）がぜひ自分たちでやりたいと手をあげ、その結果、式根島に施設を造り、運営してもらう手はずとなった。

当漁協が提示してきた場所が今の養殖場となっている亀の甲である。当時そこは海側に岩場があり、手前は砂浜の平坦地だった。規模としては小さく採算性がとれるか、懸念されたが、とにかく式根島にはそこしか適地がないということで決定した。まずA池の工事（面積4千 m^2 水深5～7m

工事費4億67百万円）が昭和57年度から始まり、途中、請負業者が変わり難工事となり、完成まで6年を要した。

この間、養殖技術が進歩し、稚魚の捕獲に代わって採卵・受精・孵化までが可能となり、稚魚の量が爆発的に増加した。また他の要因も重なってシマアジの養殖そのものの魅力もうすれた。つれてシマアジの市場価格はキロ当たり半値以下の4千円台まで下落。こういった事情を反映してか、当漁協は施設の完成を待たずに養殖事業の第一線から手を引いてしまうことになった。

このため完成後、昭和63年度からの事業は、村営となり臨時職員、数名を雇い、シマアジの稚魚を育てることからスタート。その後、平成4年度からB池の工事（面積33百 m^2 工事費7億9百万円）に着工し、6年かけて完成し、現在に至っている（なぜB池の工事に着手したのか、これも大いに議論の余地がある）。魚種はシマアジに加え、真鯛、イシガキ、真アジ、平目の養殖を手掛けてきたが、赤字は一向に解消されず仕舞いのままである。

次号は現在の養殖事業の取り組みを紹介したい。

● ● 議長 の 四 季 報 ● ●

- 4 月 1 日 防衛省技術研究本部航空装備研究所による平成 28 年度事業計画の説明
 5 日 広報編集委員会
 6 日 新島小学校入学式に出席
 7 日 新島中学校及び新島高校の入学式に出席
 22 日 港湾空港等整備促進特別委員会
 27 日 防衛省防衛装備庁及び北関東防衛局表敬訪問
 5 月 13 日 平成 28 年度第 1 回防災会議に出席
 17 日 東京都町村議会議長会及び平成 28 年度第 1 回定期総会に出席
 東京都町村議会議員講演会及び意見交換会に出席
 18 日 議員視察研修で兵庫県篠山市議会及び丹波市議会を表敬訪問
 21 日 下田市黒船祭記念式典に出席
 28 日 島じまん 2016 に参加
 30 日 平成 28 年度全国町村議会議長・副議長研修会に出席
 6 月 7 日 議会運営委員会
 平成 28 年度大島支庁管内都事業説明会に出席
 8 日 天宥別当墓参講に出席
 14 日 平成 28 年第 2 回議会定例会

編 集 後 記

梅雨の合間の 6 月議会と充実の議員視察研修を終えての編集後記となりました。

このたびの議員視察では、訪問先から持ちきれないほどの資料と刺激を受け取ることができ、今後の議会運営・広報にも変化が起きそうです。

6 月議会の中でも、地方創生の掛け声のもと、村内で生まれた新しい活力を戦略的に共有することが重要であると提言いたしました。今後とも『表紙は語る』ほか、議員個人からの提案による特集記事など追加していきたいと思っています。特に私は『人による活動』に焦点を当てたいと思います。取材要望がありましたら是非議会事務局までお寄せください。

● 広報編集副委員長 木村諭史